

ほうき ぼし 箒星

進路だより 進路オリエンテーション号

第1号

上尾市立大谷中学校
令和4年4月15日

「進路選択」ってなんだろう？

中学校3年生としての1年間は、卒業後に進む道(路)＝「進路」について考え、決定していく大切な1年間となります。ここ数年、全国の約99%の中学3年生が、卒業後に上級学校(ほとんどが高等学校)に進学するため、「進路」＝「受験」というイメージを持っている人も多いと思います。ただ実際には、将来自分がなりたい夢や目標を達成するために、どんなステップを踏んでいけばよいのかを考え、実行していく過程が「進路」であり、その1つ1つのステップを決めていくことが「進路選択」である、ということを知っておいてください。つまり、みなさんは、これから何回も訪れる「進路選択」の1つのステップとして、中学卒業後の「進路」について、この1年間で向き合っていくことになります。

【進路だより「箒星」について】

「箒星」とは「彗星(すいせい)」のことです。暗い宇宙空間において、まぶしくきらめく天体です。

未来の担い手であるみなさんは、人の形をした光です。どんな困難に対しても、輝きを失わず、自らの進路に向かって突き進んでほしい、という願いから、今年度の進路だよりはこのタイトルをつけました。ここでは、主に、高校の学校説明会や体験入学の案内、進路選択に向けた授業での取り組み、入試に関する手続きの方法、奨学金について、などを伝えていきます。大切な内容を含みますので、自分で読んだ後に必ず保護者の方にも渡して目をとおしてもらってください。また今年はこの「箒星」だけでなく、進路に関する大切な資料がたくさん配布されます。さらに、昇降口や階段等にも多くの情報が掲示され、高校のホームページ等も更新されていきます。自分から情報を収集しにいき、整理・活用する力を身に付ける良い機会と考えて、アンテナを高く持っておきましょう。

さて、3年生がスタートし、「いよいよ受験生だ!」と、気持ちを新たにしている人が多いと思います。そこで今回の箒星は「オリエンテーション号」と題して、大事な1年をスタートするにあたって、みんなに知っておいてほしいこと、気を付けてほしいことを中心に説明していきます(進路オリエンテーションで説明した内容を中心に掲載しています)。

【進路選択をする上で避けたいこと】

①高校を知らずに進学先を決めない!

成績や偏差値だけを見て、「私の偏差値とピッタリだから、〇〇高校を受ける!」という安易な決め方は、絶対にしないでください。受験する高校が、自分の特性に合った学校かどうかを考えずに決めるべきではありません。その他、通学にかかる時間やその高校の周辺地域の様子、学校の雰囲気など、実際にその学校を見なければ分からないことはたくさんあります。体験入学やオープンキャンパスなどの機会を活用し、積極的に高校に足を運んで、自分の目で見て確かめてください。決めるのはそれからです。

②勉強からの逃げ道として就職を選ぶのは大きな間違い!

お金をもらって働くということは、簡単なことではありません。最近では、新規中学校卒業生を雇おうとする企業は非常に少ない傾向です。また、仕事に就くことができたとしても、その仕事を続けるためには、学び続けたり、自分の資質や能力を高めたり、資格を取ったりと、自分を磨き、高め続けなくてはなりません。そのためには当然、勉強することが不可欠です。本当にやりたいことがあって、その実現のために就職する、というのであれば大いに結構だと思います。しかし、就職を「逃げ道」と考えるのは、大きな間違いだということを知っておいてください。

③人間関係に左右されないように!

「〇〇高校は、□□先輩が行った(△△が行くと言っている)高校だから、私も行こう」という選び方も、やはり安易な決め方であり、望ましい決め方ではありません。人間関係は

不変ではありません。その関係に変化が出てきたときのことを考えてみましょう。人間関係を最優先にして進学先を決めることは得策ではありません。

【進路選択をする上で考えること・すべきこと】

①自分は何がしたいのかを考える

ただ、漠然と「高校へ行く」というところから、「どの高校？」と考えても、なかなか思いつかないと思います。それよりも、「部活動を頑張りたい」とか、「英語を頑張りたい」など、自分がやりたいと思うことを、はっきりとさせれば、「〇〇部がある学校」とか、「英語科が設置されている学校」など、具体的に絞り込んでいくことができます。

②自分の適性を考える

「手先が器用で、機械を触ることが好き」という人であれば、工業高校や工業系の専門学校といった進路が考えられるでしょう。小さな子どもと関わることが好きな人には、「保育科」を設置している学校もあります。自分が何に向いているか、という点と、高校の特色が一致すれば、その高校が志望校となる可能性は高いと思います。

③アンテナを高くする

①、②のようなことを考えるためには、やはり情報を集める必要があります。進学したあとに、「え、こんな学校があるなんて知らなかった。」や、「あちらの学校の方が良かった。」ということにならないように、広く情報を集める努力が必要です。

④自分に向かないことを考える

①、②と逆の発想です。理科や数学が苦手な人が「理数科」に進学すると、高い確率で勉強するのが苦痛になるはずですが、英語が苦手な人が、英語教育に力を入れている学校に進学すると、きっと苦勞すると思います。このように、消去法で志望校を絞り込んでいくことも、「不本意入学」を避けるための考え方の1つだと思えます。

【進路選択に向けてがんばること：進路選択の幅を広げるために】

①学校生活を大切に→各教科の評定や学校生活の記録は調査書に記載されます

「調査書」とは、入試の際に高校に送付する、みなさんの中学校生活を記録した資料です。そこには、3年間の各教科（9教科）評定、特別活動の記録（学級活動、学校行事、各種表彰）、出欠の記録等が記載されます。高校側からすると、みなさんの中学校3年間の生活を知る上で、調査書は欠かせない資料となります。学校生活、特に日頃の授業を大切にしましょう。

②実力テスト（南部校長会テスト）→進路選択の資料に

9月、10月、1月に、「南部校長会テスト」という実力テストを受験します。この実力テストの結果を、志望校を検討する三者面談の資料の一つとします。もちろん、このテストの結果だけを見て進路指導・三者面談を行う訳ではなく、みなさんの性格や適正、将来の希望などを踏まえて話を進めていきますが、この実力テストの結果が進路選択に影響するということは否定できません。ただ、このテストや、学校外で受験する実力テストの結果で、高校の合否が決まるわけではないので、毎回のテストの結果にしばられず、志望校を考えておくことは必要です。

【最後に】

この1年は、進路選択に向けて、悩むことや心が揺れ動くことが多くなると思います。自分だけで抱え込まずに、保護者と話し合う時間をしっかりと取りましょう。また、分からないことは遠慮なく学校に相談してください。最終的な決断をし、その道を進んでいくのは、みなさん自身です。先生たちは、みなさんが悔いのない進路選択ができるよう、全力でサポートします。以下、進路に関する主な予定です。

4月	5月	6月	7月
第1回進路希望調査	進路関係の準備	24日第1回進路保護者説明会 調査書用個人調書配付 実力テスト（予定）	21日～ 三者面談 進学フェア 各高校学校説明会
8月	9月	10月	11月
各高校学校説明会 各高校体験入学会等	2日 南部校長会テスト ①	21日 南部校長会テスト ②	4日～ 三者面談 私立校個別相談会

	各高校文化祭	第2回進路希望調査 第2回進路保護者説明会	
12月	2023年1月	2月（すべて県公立校）	3月（いずれも県公立校）
三者面談 23日 記録通知書配付	年始 私立校出願開始 12日 南部校長会テスト③ 21日～私立校入試中心日	9/13日 出願 15/16日 志願先変更 22日 学力検査 24日 実技検査・面接	3日 入学許可候補者発表 6日 追検査 8日 追検査入学許可候補者発表

※日程は変更になる可能性があります。ご理解・ご協力をお願いいたします。